

大学における発達障害学生への支援 ～関係づくり・授業づくりのヒント～

一緒に考える時間にしましょう！



名城大学 曾山和彦

2016.6.17

「人」になりきれしていない大学生 ～大学の授業(講義)から～

- 一人だけでポツンと座っている学生
- 「自分のことが大嫌い」という学生
- 演習等でのかかわりが苦手な学生 等々

<こんな学生もいます>

「普通の大学講義をしてください。人とかかわりなんて自分が教壇に立てば教えられます」

2

今、気になる子どもたち 1 ～教師や友人と向き合おうとしない～

このような子どもたちが大学生に

- **大切に思う人の範囲が狭い**(杉森, 2009)
- ・自分を大事にしてほしい。相手はどうでもいい
- ・心の中は「自分」がいっぱい。「他者」はわずか
- ・心の中に「自分」もわずか

声 私の心の中にいない人に「向き合わない・大事にしない」のは当然でしょ！

大人も 電車内の化粧。周りの人は「どうでもいい」

気になる大人!?

3

今、気になる子どもたち 2 ～見えてくる支援の方向性～

「どうせ」「うざい、死ね！」

- 自分にOKと言えなければ、他者には尚更OKとは言えない。自分を大切にできなければ他者は尚更大切にできない
- 他者とかかわる技術・コツがなければ他者を大切にできない

自尊感情(自己評価の感情)を育もう！

ソーシャルスキルを育もう！

キーワードは**自尊感情**と**ソーシャルスキル**
どちらも**かかわり**の中でしか育たない
人が人になるには**人**が必要

学校存在の意義がここにある！

4

今、気になる子どもたち 3 ～発達障害の可能性～

特別支援教育開始から
年、もはや、知らない
では済まされない！

- 小中通常学級に % (文科省, 2012)

高校(全日制)に約 %

大学に発達障害診断有 %
(日本学生支援機構, 2015)

本研修では「**自閉症スペクトラム障害**」について確認！
* 発達障害診断有学生の中で最も多い障害

5

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法 2013.6月成立)

- 差別的取扱いの禁止(法定義務)
- 合理的配慮不提供の禁止(私立大学は努力義務)

基礎的環境整備のもとに

2016.4月施行

* 昨年度の村田淳先生(京都大学)、白澤麻弓先生(筑波大学)の講演資料を参照のこと

6

発達障害支援を 考える際の「二つの声」; 障害理解

うまく指導してもらえなくてもいい。
でも、子どものことは理解してほしい
(ある保護者の声)

教育を行う者が、教育を行う子どもについて
無知のまま教壇に立つことは、子どもに失礼
極まりない(2003・杉山)

自閉症者の自伝がそのヒントになる

テンブル・グランディン、ドナ・ウィリアムズ

何故、障害理解が大切なのか

～ある少年事件から～

- 少年は、精神鑑定で「**広汎性発達障害**」を指摘されている。
現在は、「自閉症スペクトラム障害」
- 広汎性発達障害の人は、言葉の意味をそのまま受け取ってしまうことがある(字義性)。少年は父親から、「もう一回嘘をついたら殺す」と言われていた。テストの得点で嘘をつき、本当にばれたら殺されると思ってしまった。

障害が問題や事件を起こすのではない。周囲の理解・対応の不十分さが、問題や事件の呼び水になりやすい。

自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)

2領域(社会的コミュニケーションの制限、反復性の行動・興味)における軽度(L1)～重度(L3)の能力低下という連続体を示す障害
(DSM- 日本語版 2014年5月発刊)

PDD (広汎性発達障害)

* 社会性、コミュニケーション、想像力の弱さ

- ・自閉性障害 (*この中で知的な遅れを伴わない者が「高機能自閉症」)
- ・レット障害
- ・小児期崩壊性障害
- ・アスペルガー障害
- ・特定不能PDD (*非定型自閉症と同義)

DSM- では
PDDの診断名

ASDへの 支援の「王道」

気になる子の理解は不可欠
そこから見える支援の「王道」

- 視覚情報の活用 フォトグラフィックメモリー
- 一度にひとつ 短期記憶の弱さ
- 予定の伝達 見通しのもちにくさ
- 肯定的表現 苦手な禁止、注意
- 文化に寄り添う

感覚の過敏性

(例) 触覚、聴覚、視覚、嗅覚、味覚等

字義性

(例) 真っ直ぐ家に帰るのよ あそこを曲がらないと帰れないよう～

拙著「気になる子への支援のワザ」(教育開発研究所)に事例がたっぷり

気になる学生との 関係づくりのヒント

主に自尊感情への
アプローチ

- 名前を丁寧に呼ぶ

高校の体育の先生がある子たちのことは下の名前で呼び、私や他の人は苗字で呼んでいた。その時点で、私はその先生のことを嫌だと思っていた。<教職課程履修 人間学部2年女子学生の声>

- 「関係づくりの第一歩は相手への関心」

大好きだったなあ、「ハングル少年」のA君

参考資料; 文溪堂「hito*yume」第23号

授業づくりのヒント 1

～明確なルール提示と確認～

なぜ、ルールが必要なのか？

・ルールは、集団の中で対人関係トラブルやストレスがなるべく少なくなるように、人が生み出した知恵。その知恵が集団の中で共有されることにより、メンバー同士、安心して学び合うことができる(河村茂雄)。

・「縛解一如」(ばっかいいちによ、木下竹次)～縛るのと解くのは同じこと。「枠」があるから安心が生まれ、自由に動ける。

7つの受講ルール

1. 私語を慎む
2. 携帯電話の電源を切る
3. 始業前に教室に入る
4. 講義中の入退室を慎む
5. 教室をきれいに使う
6. 講義中の飲食を慎む
7. 帽子(マフラー)は外す

表現上の工夫は何でしょう？



13

大学生の声

ルール提示を受け、学生はどう思うのでしょうか？



- 先生の授業は、他と違い、最初に確固たるルールを提示し、授業の雰囲気やよい状態に保ち続けている。他の授業では私語が飛び交っているのに、先生の授業は、学生が皆、静かに話を聴いている。最初にルールを提示するとこれほど効果があるのかと実感でき、自分が将来、教壇に立ったら必ず最初に生徒たちへのルール提示をしようと思った。

< 教職課程履修 理工学部1年男子学生 >

14

ルールの定着は「2本のアンテナ」で！

「話を聴く」というルールならば



- **「話を聴く」というルールならば** を見逃さないアンテナによる感知&対応

・対決 メッセージ；
・対決 メッセージ；
・「」の問いかけ；

- **「話を聴く」というルールならば** を見逃さないアンテナによる感知&対応

・肯定 メッセージ；
・肯定 メッセージ；
・ 提示；

年齢、発達段階、障害特性への留意が必要！

15

授業づくりのヒント 2

～気になる子ども溶けこむ小学校授業～



- 1指示1動作(山郷小) 2009年、TVにて紹介

学童期は「知識生活時代」、環境さえ整えば、学びが楽しくて仕方ない段階にある。まさに、そうした子どもたちの姿あり

- ユニットとルーティン(員弁東小) 私の中でのベスト1

A男を支える周りの友だちの力は教師一人の支援をはるかに超える

16

授業づくりのヒント 3

～気になる子ども溶けこむ中学校授業～



全校で授業スタイルを統一(和具中) *員弁東小も同様

- 1. 目標の提示、学習課題の提示、基礎・基本の確認
- 2. 個人追求(自分一人で考える・やってみる・活動する時間)
- 3. 「磨き合い」；ペア・グループから全体へつなげていく活動(仲間とかかわりながら考えを出し合い深め合い、高め合う活動の時間)
- 4. 振り返り(まとめ・定着・確認)

17

授業づくりのヒント 4

～教師の声&成果につながったポイント～

< 和具中教師の声 >

授業スタイルの統一により、生徒が落ち着いて学習に臨むようになった / 授業のはじめに「目標提示」、最後に「振り返り」があり、生徒が「目的をもって1時間の授業に臨むようになってきた / グループ学習継続により、授業中の話し合いに慣れてきた / 「磨き合い」の中で、わからないことを気軽に聞いたり、根気よく説明したりする姿が見られるようになってきた 等

< 成果につながったポイント >

- ・ルーティンの導入
- ・視覚情報の活用
- ・ペア・グループ活動の導入

私の大学授業も似ています



昨年度、日野高校、倉吉農業高校の参観授業もGood!

18

おわりに

- I think の前には理論が必要(國分)
- 一つだけでは多すぎる(外山)

お互い、よりよい関係づくり&
授業づくりを考えていきましょう！



19

参考

イメージング教育システム 実践事例データベースの活用



実践事例データ
ベース活用を！



20

参考



合理的配慮を
学ぶならこれ！

21

主な参考文献

- 「国際社会の範として異質な他者への博愛を育む道徳教育を」、杉森伸吉、明治図書「学校マネジメント」No.637
- 「自閉症だった私へ」、ドナ・ウィリアムズ、新潮文庫
- 「アスペルガー症候群と高機能自閉症の理解とサポート」、杉山登志郎、学研
- 「自閉症の僕が跳びはねる理由」、東田直樹、エスコアール
- 「親業」、トマス・ゴードン、サイマル出版
- 「思考の整理学」、外山滋比古、筑摩書房
- 「時々、“オニの心”が出る子どもにアロー学校がするソーシャルスキル・トレーニング」、曾山和彦、明治図書
- 「子どもに学んだ “王道” ステッパン・ツー・スリー」、曾山和彦、文溪堂

特別支援に関する私の考えの全ては
「王道ステップ」にまとめました！



HP ; 'KAZU・和・POCKET'

22